



教職救世塾【1 - 0】

単元 1 : 教育の意義を問う

「教職救世塾」開設の理由



自己紹介～藤井秀一

文学青年から教師、学校改革

高校国語教師 21年

- 入試企画相談委員 17年
- 学年主任 6年
- 学校経営改善委員 6年
- 生徒と共にボランティア
- 教科主任・生活副部長等



起業・転職・法人設立

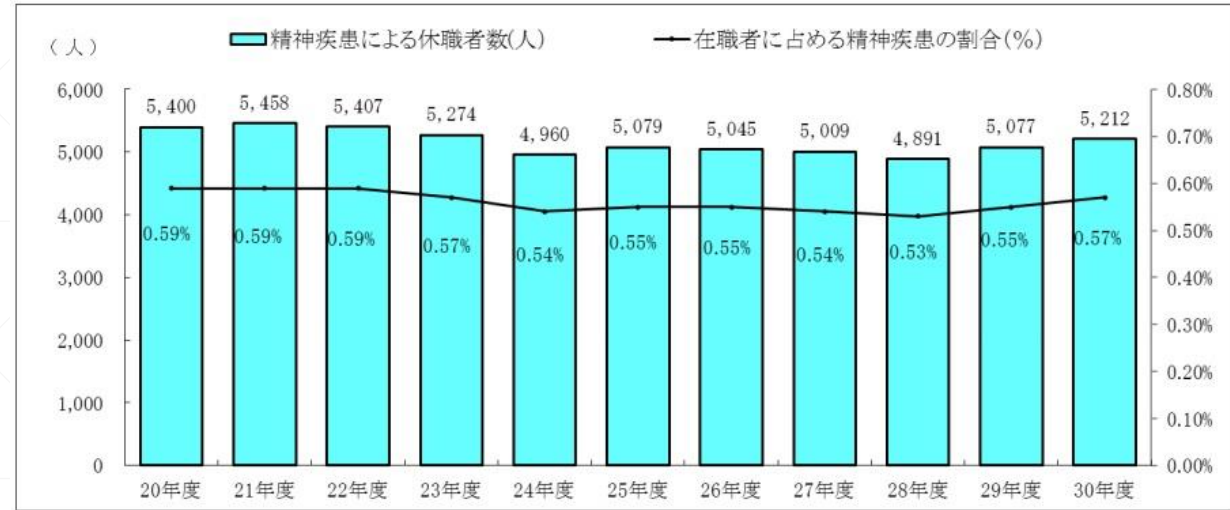
教職を去って

- 学校経営改善支援
- 教委・生協・自治体支援
- NPO親心支援協会設立
- 教師のキャリア開発支援
- 発達障害学生・留学生のキャリア支援





※教育職員の精神疾患による病欠休職者数の推移(平成20年度～平成30年度)



教師を取りまく現状

ブラック企業「学校」

— 教師の働きにくさ —

- ・自殺教員およそ100名／年
- ・精神疾患による休職教員およそ5,000名／年
- ・パワハラ、時短ハラ、セクハラ、職員室いじめ

☆「教師の働き方改革」の無意味



教師を取りまく現状

ブラック企業「学校」

— 使命感はどこへ —

- ・事なかれ教師の増加 → 「職業教師化」の進行
- ・教育理念ではなく、保身と利己主義が主流に
- ・児童生徒への対応は「処遇」から「処理」へ

☆ TALIS2018・・・日本国の教育の破綻が見えている



TALIS2018 – 教員の職務時間

表3 教員の仕事時間

		【仕事時間の合計】	指導（授業） (a)	学校内外で個人で行う授業の計画や準備 (a)	学校内での同僚との共同作業や話し合い	児童生徒の課題の採点や添削	児童生徒に対する教育相談（例：児童の監督指導、インターネットによるカウンセリング、進路指導、非行防止指導）
中学校	日本	56.0時間	18.0時間	8.5時間	3.6時間	4.4時間	2.3時間
	日本(前回調査)	(53.9時間)	(17.7時間)	(8.7時間)	(3.9時間)	(4.6時間)	(2.7時間)
	参加48か国平均	38.3時間	20.3時間	6.8時間	2.8時間	4.5時間	2.4時間
小学校	日本	54.4時間	23.0時間	8.6時間	4.1時間	4.9時間	1.3時間

		学校運営業務への参画	一般的な事務業務（教員として行う連絡事務、書類作成その他の事務業務を含む） (a)	職能開発活動	保護者との連絡や連携	課外活動の指導（例：放課後のスポーツ活動や文化活動）	その他の業務
中学校	日本	2.9時間	5.6時間	0.6時間	1.2時間	7.5時間	2.8時間
	日本(前回調査)	(3.0時間)	(5.5時間)	—	(1.3時間)	(7.7時間)	(2.9時間)
	参加48か国平均	1.6時間	2.7時間	2.0時間	1.6時間	1.9時間	2.1時間
小学校	日本	3.2時間	5.2時間	0.7時間	1.2時間	0.6時間	2.0時間



TALIS2018 – 教員のやりがい

表11 教員の自己効力感

		児童生徒がわからない時には、別の説明の仕方を工夫する	児童生徒を教室のきまりに従わせる	学級内の秩序を乱す行動を抑える	自分が児童生徒にどのような態度・行動を期待しているか明確に示す	秩序を乱す又は騒々しい児童生徒を落ち着かせる	児童生徒のために発問を工夫する
中学校	日本	62.9%	61.9%	60.0%	59.9%	59.7%	50.8%
	参加48か国平均	92.7%	89.9%	86.1%	91.5%	84.9%	88.7%
小学校	日本	63.2%	62.7%	64.1%	63.9%	58.7%	49.4%

		デジタル技術の利用によって児童生徒の学習を支援する(例:コンピュータ、タブレット、電子黒板)	児童生徒が学習の価値を見出せるよう手助けする	多様な評価方法を活用する	勉強にあまり関心を示さない児童生徒に動機付けをする	児童生徒の批判的思考を促す	児童生徒に勉強ができると自信を持たせる
中学校	日本	35.0%	33.9%	32.4%	30.6%	24.5%	24.1%
	参加48か国平均	66.7%	82.8%	82.0%	72.0%	82.2%	86.3%
小学校	日本	38.5%	41.4%	33.3%	41.2%	22.8%	34.7%



生きていけなくなる教師とは

社会の要請は見えているか

— 時代の変化が見えない学校 —

- ・ 経営者 = 「勉強しかできない人はいない」
 - ・ 教師 = 勉強しかできない人物が増えている
 - ・ 人材育成能力（教師力）は偏差値に比例しない
- ☆ 誤りのもと・・・「専門知識を磨けば良い教師になれる」



生きていけなくなる教師とは

社会人基礎力

— 利他の精神が自分を救う —

- ・世の中はどうかであれば幸せだと言えるのか？
- ・仕事 = 世の中の困りごとを解決すること
- ・バージョンアップなしに使命を果たせるか

☆ 未熟の克服が自分を解放する唯一の手段



社会人基礎力12の要素

< 3つの能力 / 12の能力要素 >

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性**
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力**
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力**
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

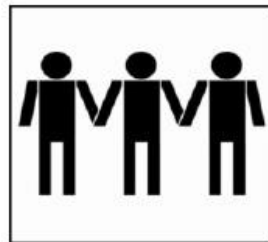
～疑問を持ち、考え抜く力～



- 課題発見力**
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力**
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力**
新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力**
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力**
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性**
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力**
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性**
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力**
ストレスの発生源に対応する力



21世紀に必要な「教師の力量」

社会変化への対応力

— 専門性の罫から脱すること —

- P E S T アンテナを張る
- なぜ教育者なのか～目的の明確化
- 経営観 + 組織観

☆『教職救世塾』・・・解決力ある教師の育成をめざす



21世紀に必要な「教師の力量」

当塾のめざす方向性

— 育成すべき要素 —

自己キャリア開発能力

コーチング能力

教育哲学

イノベーション力

社会人基礎力

社会貢献と自己実現

リスク管理能力

マネジメント力



21世紀に必要な「教師の力量」

受講者にめざしてほしい方向性

— 教師力の強化 —

- ・自己ブランド化
- ・利他の精神
- ・他者の能力を引き出す力
- ・イノベーションの道筋の付け方



「伸びる教師」の思考基準

1. 常に説明責任を考えているか **インフォームド・コンセント**
2. 透明性を確保しているか **見える化**
3. 倫理的な行動が定着しているか **矜持**
4. ステークホルダーの利益・安心を確保しているか **利害関係の認識**
5. 法の支配の原則を守っているか **遵法精神**
6. 全世界的な行動規範を尊重しているか **世界観・社会観**
7. 人権の尊重を確実化できているか **人権意識**



『教職救世塾』

基本的構想

— 伏龍の眠りを覚ます —

- ・不遇な環境ではたらく先生方を表舞台へ
- ・草の根から支え、芽吹きを支援し、「肥料役」に徹する
- ・学校経営を担える人材の創出に総力を賭ける

☆「教育は国家国民の未来の基盤」



『教職救世塾』

教育応用力の敷衍

— 真の教育の再生 —

- ・21世紀型社会に対応できる人材育成力
- ・勤務校のブランド化を率先して推進できる学校経営力
- ・変化を追うのではなく、変化を作り出せる教育革新力

☆ 学校は受験支援の場ではない



『教職救世塾』

根幹にある思想

—老子 第18章—

大道廃、有仁義。

智慧出、有大偽。

六親不和、有孝慈。

国家昏乱、有忠臣。



教育は国家国民の未来の基盤

ありがとうございました

教師専門のキャリア・コーチ

藤井秀一

国家資格キャリアコンサルタント

プロフェッショナル・キャリア・カウンセラー

エグゼクティブ・コーチ/エイジング・アドバイザー